

令和4年度 第2回豊明市文化財保護委員会会議録

日 時：令和5年2月15日（水）

場 所：豊明市役所新館1階 会議室6

出席者：佐野委員、近藤委員、相場委員、鈴木委員、岡村委員、永井委員、鬼頭委員、岩本委員

事務局：藤井教育部長、深草生涯学習課長、青木生涯学習課長補佐、岸田専門員

傍聴人：なし

1 教育部長挨拶

桶狭間古戦場伝説地近くの国道1号線の信号の地名表示が「桶狭間古戦場北」になり、もっと豊明の桶狭間古戦場についてPRをしていきたい

2 議題

(1) 令和4年度 事業報告について

(事務局説明)

○歴史民俗資料室のリニューアルオープンについて

・本年度、歴史民俗資料室をリニューアルオープンしたことに伴い見学者にアンケートをとった。展示の満足度については、良いという意見が大半であった。豊明市史に基づく展示であり、豊明市の歴史について理解が深まったという意見を多くいただいた。これまでの来室者数は2,820名で、開室日以外に視察や講座、見学等で訪れる人を含めて、1年間で3,000名以上を見込んでいる。

○ナガバノイシモチソウ・大狭間湿地の管理状況について

・ナガバノイシモチソウの一般公開は、5日間で629名の参加があり、大狭間湿地の一般公開については5日間で528名の参加があった。また、イシモチソウの公開時には3年ぶりに高校生に参加していただいた。

○文化財保護委員会視察研修について

・本年度もコロナの感染状況を踏まえ中止とする。

○文化財講座について

・市制50周年および歴史民俗資料室リニューアルオープンを記念して、子どもにも体験できる内容で各種の文化財講座を実施した。

講座内容について第1回目は、「家紋の由来・ヒノキを使った家紋コースターづくり」、第2回目は、「古代の勾玉づくり」、第3回目は「ご当地検定 とよあけ歴史文化検定プレ講座」、第4回目は講演会「源頼朝から足利尊氏へ」、第5回目は、「旧石器時代の生活を体験」を行った。

さらに市制50周年を記念して「とよあけ歴史文化検定」を行った。42名が受験し、なかには東京都や石川県など県外・市外からの受験した方もみえた。参考資料の持ち込みが可ということで受験者の8割5分が合格であった。

○埋蔵文化財の保護調査について

・12月に陣田遺跡の試掘調査を実施した。土器小片2つの出土があり、4月以降に倉庫ができる予定で工事立ち合いを行う。

○寄贈品について

- ・LPレコードとレコードプレーヤー（昭和初期から昭和70年代のもの）、御殿飾雛人形、五月人形、鈴付き鞍（おまんとう馬用）と市史に関する書籍、東沓掛区書類（昭和初期の若王子池の水利計画、軍人名簿など）、市史（自然）に係る写真

（委員）

今後も継続的に文化財講座、ワークショップ、検定を実施した方がよい。ご当地検定「とよあけ歴史文化検定」の合格者についてはボランティアとして、市文化財の案内などに活用できるとよい。

（委員）

文化財保存に関連して、一之御前安産水の周辺環境は経年劣化が進んできているため環境整備について検討をお願いしたい。

（委員）

文化財講座での体験学習に関して、志段味ミュージアムでは埴輪づくり体験をやっている。石器や民具なども見せ、歴史への興味付けや導入の一助とするとよい。

（委員）

寄贈を受けた写真資料は、デジタルデータに置き換えると活用できる幅が広がる。また、軍人名簿などは厳重に保管された方がよい。

（事務局）

今後も継続的な啓発活動を進めていく考えである。

議題（2）令和5年度事業計画について

（事務局説明）

- ・文化財保護委員会は年3回開催を考えている。なお、必要に応じて臨時会を実施する予定である。
- ・令和5年度の委員会視察研修は、コロナの感染状況をみて検討していきたい。
- ・ナガバノイシモチソウの一般公開は例年通り前半の2日間（7月29日・30日）のみ大狭間湿地とのマイクロバスの巡回を考えている。
- ・ナガバノイシモチソウの保存活用計画策定については完成次第、本委員会に提示したいと考えている。
- ・民具を保管する収蔵庫は収蔵展示室の形態で公開したいと考えている。また、既存の台帳をもとに新たな民具台帳の整理の仕方についても考えていきたい。
- ・令和5年度企画展は「収蔵品展」と題し、収蔵資料の有効活用を考えていきたい。「豊明祭り」などのイベント時を中心に企画展の時期を設定したい。
- ・令和6年度は企画展「生活の移り変わり」と題し、民俗資料の変遷から抜け落ちているものを市広報などで呼びかけて収集していきたい。場所は、体験学習室と収蔵庫（収蔵展示室）を予定している。
- ・令和7年度企画展は「豊明の自然」（仮称）を計画。令和8年度に湿地サミットが豊明市で開催されるため、それを意識して企画展示を行っていきたい。市広報の連載記事「とよあけの自然」をまとめ、小冊子にして配布したり、それを用いて自然探索できるものにしたい。

(委員)

- ・ナガバノイシモチソウや大廻間湿地の一般公開について、色々なところに情報発信をしていくとよい。SNS も大事だが、新聞の力は大きいと感じる。

(委員)

- ・外に出て、史跡巡りをすることはいいと思うが、歩くスピードも考慮する（参加者の年齢など）必要がある。それから、万一に備えて団体保険に加入するといい。
若い世代にも、少し前の歴史（昭和・平成に流行したもの）について印象に残るような展示を検討するとよい。大河ドラマ「どうする家康」の影響か、沓掛城についてのツイートが急増していると思う。遠方から来ている人も多いので沓掛城に行ったらメリットがあるようなしくみを作れるとよい。

(委員)

- ・史跡とカラット（歴史民俗資料室）の導線ができるといい。
沓掛城周辺は、歴史も自然もあり景観もよく、総合的に文化財の活用を考えていくとよい。名古屋や安城では、文化財循環コースを設定しており、沓掛城を中心に市としてもっとアピールするといいのではないかな。

(事務局)

以上の意見を踏まえて、出来るところから進めていくことにしたい。

3. その他について

(事務局説明)

- ・令和5年度の広報特別号掲載記事について沓掛城に関する内容を永井委員が執筆し、11月ごろの掲載予定とする。
- ・文化財保護委員委嘱について、次年度も8人で継続をお願いしたいと考えている。

次回の文化財保護委員会の日程については、5月上旬を予定。